

平成29年度 事業報告

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

第1 事業に関する事項

1 豆類をめぐる諸情勢

(1) 主産地北海道における豆類の生産

平成29年産雑豆類の作付指標面積は、小豆20,000ha、いんげん9,100ha（うち金時6,450ha、手亡1,800ha）に設定されたが、平成29年産の作付面積は、農林水産省の発表によると、小豆は前年に比べ1,700ha増加したものの17,900haであった。また、いんげんは前年に比べ1,310ha減少し6,630haで、うち金時は前年に比べ1,100ha減少し5,070ha、手亡は140ha減少し1,060haであった。

平成29年産の生育については、5月後半は高気圧に覆われ、小豆、金時とも播種作業は順調であった。6月には記録的な多雨となったものの、7月の降水量は平年並みで、日照時間はかなり多くなったことから、8月1日時点での生育は、小豆、金時のいずれも平年並みに推移した。その後は、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で、オホーツク海側と太平洋側を中心に曇りの日が多く、日照時間が少なくなったことから、9月1日時点での生育は、小豆で1日遅れ、金時で3日遅れとなり、草丈、葉数については、小豆、金時とも平年並みであったものの、着莢数については小豆、金時ともやや少なくなった。10月15日現在の収穫状況は、小豆では3日遅れであったが、金時では断続的な降雨の影響等により8日遅れとなった。

北海道における豆類の生産状況

(単位：ha, kg/10a, t)

区分	作付面積			収量		収穫量			作付指標面積(注)	
	28年	29年	増減	28年	29年	28年	29年	増減	29年	30年
小豆	16,200	17,900	1,700	167	278	27,100	49,800	22,700	20,000	22,000
いんげん	7,940	6,630	△1,310	69	248	5,480	16,400	10,920	9,100	8,930
うち金時	6,170	5,070	△1,100	51	240	3,150	12,200	9,050	6,450	6,200
うち手亡	1,200	1,060	△140	133	289	1,600	3,060	1,460	1,800	2,000
雑豆合計	24,140	24,530	390	—	—	32,580	66,200	33,620	29,550	31,320
大豆	40,200	41,000	800	205	244	82,400	100,000	17,600	38,870	37,285
合計	64,340	65,530	1,190	—	—	114,980	166,200	51,220	68,420	68,605

資料：農林水産省統計部「平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい(乾燥子実)の収穫量」等による。

(注) 作付指標面積の雑豆合計にはえんどうを含む。

平成 29 年産の生産量は、おおむね天候に恵まれたことから、小豆の 10 a 当たり収量は 278kg と台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ 66%上回り、収穫量は 49,800 t と前年産に比べ 22,700t (84%) 増加した。また、いんげんについても 10 a 当たり収量は 248kg と前年産に比べ 259%上回り、収穫量は 16,400 t と前年産に比べ 10,920t (199%) 増加（うち金時は 12,200t と前年産に比べ 287%増加、手亡は 3,060t と前年産に比べ 91%増加）となった。

なお、平成 30 年産雑豆類の作付指標面積は、各作目を取り巻く需給情勢を踏まえ、小豆 22,000ha、いんげん 8,930ha（うち金時 6,200ha、手亡 2,000ha）に設定された。

（2）豆類の消費

輸入物を含めた雑豆（小豆、いんげん、えんどう、そらまめの乾燥豆）の平成 29 豆年度（平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月）の消費実績は、前豆年度を 18.8 千トン上回る 150.1 千トンとなった。この内訳は、小豆 81.3 千トン（12.8%増）、いんげん 47.2 千トン（16.3%増）、えんどう 17.1 千トン（17.9%増）、そらまめ 4.5 千トン（9.8%増）となっている。

また、平成 29 豆年度の輸入量は、小豆（26.4%増）、いんげん（0.3%増）及びえんどう（13.9%増）が増加した結果、前豆年度を 6.7 千トン（9.9%増）上回る 74.3 千トンとなった。

加糖餡の輸入量は、近年減少傾向にあり、平成 29 年には前年比 4.3%減の 59.8 千トンとなった。

（3）豆類の価格

北海道産小豆の価格は、平成 28 年産の収穫量が大幅に減少したため、平成 28 年 9 月以降上昇して平成 29 年 3 月には 24,932 円/60kg、4 月には 25,000 円/60kg となり、その後は平成 29 年 9 月まで 25,000 円/60kg で推移した。平成 29 年 10 月に入ると、平成 29 年産小豆の生産量は不作だった平成 28 年産を大きく上回ったものの、繰越数量の減少により期首供給量が減少した結果、価格は再び上昇に転じて平成 30 年 3 月には 28,000 円/60kg となっている。

また、大正金時の価格は、平成 28 年産の不作の影響により平成 28 年 9 月以降価格が上昇し、平成 29 年 2 月から 9 月までは 43,000 円で推移した。しかし、平成 29 年産が豊作となったこともあり、その後は価格が下がり平成 30 年 3 月では 35,000 円/60kg となっている。

大手亡の価格は、平成 28 年産の不作の影響により平成 29 年 1 月以降上昇し、平成 29 年 3 月から 10 月までは 21,500 円/60kg で推移した。平成 29 年 11 月以降、平成 29 年産大手亡の生産量は不作だった平成 28 年産を大きく上回ったものの、繰越数量の減少により期首供給量が減少した結果、価格は再び上昇し、平成 29 年 12 月以降は 25,000 円/60kg となっている。

輸入小豆の価格については、中国産（天津小豆）は平成 26 年以降、60kg 当たり 14 千円弱から 16 千円強の間で推移してきたが、平成 29 年 10 月以降は 13 千円台となっている。一方、カナダ産は平成 27 年 11 月に 14 千円であったものが、以後徐々に上昇し、平成 29 年 11 月以降は 18 千円台となっている。

なお、中国産の輸入小豆 CIF 価格は平成 29 年では 8,200 円/60kg（前年比 17%安）、カナダ産の輸

入小豆 CIF 価格は 8,900 円/60kg (前年比 3%安) となっている。

北海道豆類の月平均価格 (東京仲間相場)

(単位：円/60kg)

	H29 8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H30 1 月	2 月	3 月
小 豆	25,000	25,000	26,667	27,510	27,720	27,900	27,942	28,000
(前年同月)	21,450	23,625	24,405	24,500	24,500	24,622	24,700	24,932
大正金時	43,000	43,000	36,905	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
(前年同月)	31,000	31,000	38,286	40,900	41,000	42,222	43,000	43,000
大手亡	21,500	21,500	21,500	23,075	25,000	25,000	25,000	25,000
(前年同月)	20,500	20,500	20,500	20,500	20,500	21,111	21,500	21,500
輸入小豆(天津)	14,000	14,000	13,571	13,000	13,000	13,000	13,084	13,200
(前年同月)	16,180	16,110	14,952	14,500	14,689	14,733	14,695	14,800
輸入小豆(カナダ)	17,395	17,500	17,829	18,000	18,000	18,000	18,042	18,100
(前年同月)	15,325	15,475	14,643	13,660	13,828	14,367	14,753	14,977
ベビーライマ(米国)	9,805	9,600	10,262	10,510	10,600	10,667	11,542	12,267
(前年同月)	10,405	9,865	9,210	9,220	9,906	10,083	10,000	10,000

(注) 東京深川倉前渡し、中間 2 等 (現物)。輸入ものは横浜渡し、一次問屋基準 (現物)

2 実施した事業

当協会の事業目的に即して、良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）及び健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）を実施した。その際、業務の的確かつ効率的な運営に配慮しつつ、協会の助成事業や直轄事業により以下の各項目に記したとおり実施した。

また、豆類振興事業に関しては、広く一般から事業や課題を公募し、第三者で構成される審査委員会の選定結果に基づいて、平成28年度末までに、平成29年度豆類振興事業助成対象候補を選定した。

良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）

[調査研究]

1 雑豆需要促進調査研究への助成（公募）

新たな雑豆の需要促進に資するため、大学、試験研究機関等の研究者が実施する、新需要開発、健康維持・増進の各分野での調査研究として、次の6課題に助成した。

(1) 小豆を用いた新規な無塩醤油様調味料の開発

山形大学農学部 教授 永井 毅

(2) ヒヨコマメ麹菌発酵食品の実用化商品開発に関する研究

共立女子大学家政学部 教授 上原誉志夫

(3) 全粒あずきを主原料とする膨化シリアル食品の開発

桜の聖母短期大学生生活科学科食物栄養専攻 教授 渡部 誠

(4) 地域伝統雑豆における調理科学的特性把握と機能性成分の変動性の解明

山形県農業総合研究センター食品加工開発部 研究員 佐藤寛人

(5) 雑豆パウダーの栄養学的特徴を活かした栄養調整・補助食品の開発と栄養機能性の検証

帯广大谷短期大学生生活科学科 助教 佐々木将太

(6) ササゲ属雑豆の抗ウイルス活性に関する調査研究

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 助教 渡邊 健

2 豆類事情調査

国内外において豆類の生産流通消費動向に関する調査を実施した。国内関係としては、平成28年に引き続き、「餡粒子の消化に関する調査研究」により、ラットを用いた小豆餡の消化試験等を行った。また、「雑豆生産消費動向調査（輸出関係）」により、和菓子の海外（アメリカ、シンガポール）での需要動向と海外展開の可能性等を調査した。さらに、「品種登録審査基準策定のための標準品種予備調査」において小豆品種の栽培特性調査等を実施するとともに、道府県等の小豆研究者の参加を得て小豆研究情報交換会を帯広で開催した。

一方、海外関係としては、「海外豆類事情調査団派遣事業」をオーストラリアにおいて平成30年2月10日～18日の9日間に渡って実施した。また、平成28年度に引き続き、豆類主要輸出輸入国現地調査事業をブラジルを対象に実施した。

[試験研究] (公募)

1 品種改良試験

豆類の品種改良を促進するため、次の試験研究6課題に助成し、次の各機関で実施された。

- (1) 菜豆類のダイズシストセンチュウ抵抗性育種素材の探索
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (2) インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を持つ表型大納言小豆品種の育成
京都府農林水産技術センター生物資源研究センター
- (3) アズキ茎疫病菌圃場抵抗性 DNA マーカー選抜を利用した道央道南地域向け小豆品種開発強化
地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場
- (4) 小豆におけるダイズシストセンチュウ抵抗性の選抜強化と DNA マーカーの開発
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場
- (5) 小豆の機械収穫適性を向上させる長胚軸に関する DNA マーカーの開発
国立大学法人帯広畜産大学
- (6) 加工適性に優れるサラダ等用途向け赤いんげんまめの開発強化および機械収穫適性の評価
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

2 病害虫試験

被害が生じ拡散も懸念されている病虫害の防除対策のため、次の試験研究課題に助成し、次の機関で実施された。

- (1) アズキ茎疫病菌のレース分布解明と検定法の改良
地方独立行政法人北海道立総合研究機構上川農業試験場

3 栽培法試験

豆類の栽培法の改善を図るため、次の試験研究4課題に助成し、次の機関で実施された。

- (1) 能登大納言小豆の開花期の生育環境改善技術の開発
石川県農林総合研究センター農業試験場育種栽培研究部能登特産物栽培グループ
- (2) 丹波大納言の機械化体系栽培における大粒安定多収栽培技術の確立
京都府農林水産技術センター農林センター
- (3) 道東の早生小豆栽培地域における生産安定性の向上
地方独立行政法人北海道立総合研究機構北見農業試験場
- (4) 気象変動に対応した金時類の安定生産技術の開発
地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場

4 機械化試験

豆類生産の機械化による省力化を推進するため、次の試験研究課題に助成し、次の機関で実施された。

(1) 花豆の高品質省力生産に向けた収穫・栽培方法の検討

地方独立行政法人北海道立総合研究機構北見農業試験場

5 開発試験

豆類の加工、調製過程における新技術を開発するため、次の試験研究3課題に助成し、次の機関で実施された。

(1) 小豆種皮の紫色色素の品種間差と餡への移行に関する試験

名古屋大学大学院情報科学研究科

(2) 近赤外分析法による菜豆品質項目の非破壊一括評価法開発

地方独立行政法人北海道立総合研究機構中央農業試験場

(3) インゲンマメゾウムシ寄生子実選別用光学選別装置の開発

公益財団法人とかち財団十勝産業振興センター

[技術普及事業]

1 技術普及事業への助成（公募）

豆類栽培の優良農家、集団を表彰しその成果を広く紹介する豆類経営改善共励会の開催、作付指標面積に即して良品質豆類の計画的な安定生産を図るための豆類生産安定指導事業等の4事業に助成した。

2 技術普及事業の推進

北海道における豆類生産の安定化のため各種調査や指導を支援するとともに、豆類栽培管理技術の高位標準化と計画的な作付けによる生産の安定化を図るため、農業者及び農業関係者を対象に豆作り講習会を開催した。

（豆作り講習会の開催概要）

研修内容：豆類を巡る情勢、豆類の計画生産・需給状況、実需者からの道産豆類への要望、良質豆類の生産技術等に対する説明・講演

日程等：平成30年1月30日：旭川市、1月31日：倶知安町、2月7日：大空町、2月8日：幕別町にて開催。参加者は合計721名

[豆類生産対策事業]

1 豆類種子対策事業への助成（公募）

高品質の豆類生産に大きな役割を果たす優良種子の安定生産と普及を図るため、豆類原原種、原種、種子の増殖事業等の3事業に助成するとともに、北海道における豆類新品種の開発普及事業に助成した。

健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）

[豆類消費啓発事業]

1 豆類消費啓発事業への助成(公募)

豆類・豆料理に関する一般消費者の理解増進、知識啓発等を図るため、複数の豆類関係団体が連携して取り組む豆類に関する一般消費者の知識啓発及び理解増進を目的とした事業を公募し、「桜餅」誕生300周年記念を取り上げつつ春の和菓子を対象とした消費啓発、豆類関係団体が連携して実施する「豆の日」キャンペーン等に関する事業、主婦等を対象とした豆！豆！料理コンテスト（応募総数964作品）、豆料理教室（全国63主要都市で開催、受講者1,249名）を行う事業に助成した。

また、北海道産白小豆・福白金時の消費拡大推進を図るため、開発した新商品を消費者、和菓子業界に向け啓発活動を行う事業に助成した。

2 豆類消費啓発事業への協力

(1) 学校豆料理講習会

学校給食における豆料理提供機会の普及・定着を図るため、栄養教諭期成会が実施する学校栄養士豆料理講習会（19道府県・22箇所、受講者数1,015名）及び児童、父母も参加する親子豆料理教室（12都県・24箇所、受講者数996名）に助成した。

(2) 豆類振興への協力

一般消費者の豆類・豆製品類に関する知識啓発及び理解増進を図ることを目的として、全国穀物商協同組合連合会を始めとする豆類の流通・加工関係12団体が、それぞれの専門性を活かして実施する豆類・豆製品類に関する講習会、調査、資料配布等を行う事業に助成した。

3 豆類消費啓発事業の推進

(1) 消費啓発資料の制作配布

食に関する指導者や一般消費者の豆類に関する知識啓発及び理解増進を図るため、豆の種類・特性、豆の健康栄養性、豆の基本的調理法、豆料理レシピ等に関する情報を掲載した各種資料を作成した。

これらの資料については、「豆の日」関連イベント等の場で消費者に積極的に配布するとともに、栄養・家政学系大学・短大、栄養・調理専門学校、栄養士会等の食育指導団体、消費生活センター等の消費者指導啓発機関、豆類関係団体等に配布案内を行い、希望に応じて配布した（消費啓発資料の配布総数は11万5千部）。また、映像資料等は協会ホームページ等においても紹介した。

(2) 豆を使った食育の推進

豆類に関する児童の理解促進を図るため、豆を使った食育指導用の学習読本を制作し、全国の小学校のうち8千校に配布案内を行い、利用希望のあった1342校に9万9千部を配布した。併せて、同資料の効果的利用に資するため、指導者向け解説書5千部及び豆標本セット1,276セットを制作・配布した。

(3) マスメディアを利用した豆類に関する情報の伝達

一般消費者に豆料理、豆の調理法、豆の栄養等に関する情報を伝達するため、生活情報誌、栄養・料理専門誌に広告・記事を合計9回出稿した。また、総合週刊誌とタイアップし、医学的観点から豆類の持つ優れた栄養・健康機能等についての記事掲載を行った。

さらに、スマートフォンを通じた豆類消費啓発活動を推進するための検討会を開催し、この成果をイベント等を活用して情報発信した。

(4) 豆類消費啓発イベントの実施

一般消費者の豆類に関する消費啓発及び理解増進を目的として豆類関係団体が制定した「豆の日」(10月13日)の中央イベントとして、10月2日、「「家庭で簡単・豆料理」豆の日シンポジウム2017」を開催した。シンポジウムには、約400名が参加し、料理研究家による「家庭で簡単・豆料理」をテーマとする講演やディスカッション、家庭のレシピに取り入れやすい豆料理の試食が行われた。このイベントに関する記事を全国新聞に掲載して広く周知した。

また、小豆餡、甘納豆の一層の消費啓発に資することを目的に、料理専門学校の協力を得て、市販の餡、甘納豆を利用したスイーツ・パンコンテストを実施し、優秀作品をホームページ等で紹介した。

[情報資料の提供等]

豆類に関する情報を発信するため、季刊誌「豆類時報」を4回発行した。

当協会のホームページについて、内容の充実と利便性を向上させるため、システムと掲載内容の全面的な改訂を行った。

また、フェイスブックによる豆類関係情報の発信、豆類に関する統計その他情報の収集・整備、資料発行を行った。

第2 管理運営に関する事項

1 評議員会、理事会、監事監査

(1) 評議員会

① 平成29年度定時評議員会 平成29年6月7日(水)

場 所：三会堂ビル 2階 S会議室

出席者：評議員8名、理事3名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 平成28年度事業報告及び決算の承認について
監事監査報告

第2号議案 理事の選任について

第3号議案 監事の選任について

第4号議案 評議員の選任について

第5号議案 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の一部改正につ
いて

② 臨時評議員会 平成29年6月21日(水)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 理事の選任について

③ 臨時評議員会 平成29年10月19日(木)

場 所：霞が関コモンゲート西館 霞山会館会議室

出席者：評議員9名、理事3名、監事1名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 評議員の選任について

(報告事項) 平成29年度上期事業進捗状況及び収支状況について

④ 臨時評議員会 平成30年3月30日(金)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 監事の選任について

(2) 理事会

① 第1回理事会 平成29年5月24日(水)

場 所：三会堂ビル 2階 A会議室

出席者：理事9名、監事2名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 平成28年度事業報告及び決算について
監事監査報告

第2号議案 役員候補者の選定について

第3号議案 平成29年度定時評議員会の開催について

第4号議案 資産管理運用規程の一部改正について

第5号議案 経理規程の一部改正について

(報告事項) 職務の執行状況について

② 第2回理事会 平成29年6月7日(水)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 常務理事(業務執行理事) 斎藤聰を解任し非常勤理事とする件

第2号議案 飯田道夫を常務理事(業務執行理事)に選定する件

第3号議案 安永義克を参与に任命する件

第4号議案 事務局長 佐藤洋を解任する件

第5号議案 角谷徳道を事務局長に任命する件

第6号議案 常務理事(業務執行理事)を退任した斎藤聰に対し、退職慰労金を支給する件

③ 第3回理事会 平成29年6月16日(金)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 理事候補者の選定の件

第2号議案 平成29年度臨時評議員会(書面決議)の開催について

④ 第4回理事会 平成29年6月22日(木)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 理事長(代表理事)の選定の件

⑤ 第5回理事会 平成29年9月15日(木)(書面決議)

決議の省略の方法により次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 平成29年度臨時評議員会(書面決議)の開催について

⑥ 第6回理事会 平成29年10月19日(木)

場 所：霞が関コモンゲート西館 霞山会館会議室

出席者：理事8名、監事1名

次の事項の報告がなされた。

報告事項 (1) 平成29年度上期事業進捗状況及び収支状況について

(2) 職務の執行状況について

⑦ 第7回理事会 平成30年3月22日(木)

場 所：三会堂ビル 2階 S会議室

出席者：理事8名、監事1名

次の議案を審議し、決議した。

第1号議案 平成30年度事業計画及び収支予算等について

第2号議案 平成29年度臨時評議員会(書面決議)の開催について

(報告事項) 職務の執行状況について

(3) 監事監査 平成29年5月8日(月)

場 所：三会堂ビル4階 (公財)日本豆類協会 会議室

出席者：監事1名

平成28年度の業務の執行及び財務の処理状況について、監事による監査が実施され、いずれも正確かつ適正である旨の監査報告書が提出された。

2 役員等の異動

(1) 評議員

① 平成29年6月7日付 選任及び退任

(再任5名)

岩城晴哉、角田光隆、梶原雅仁、高橋正道、松川勲、

(新任5名)

一文字桂次、増田重樹、藪光夫、吉田岳志、吉田泰弘

(退任6名)

黒川光博、坂本元子、杉原康夫、竹村秀毅、畑中孝晴、森岡文雄

② 平成29年10月19日付 選任及び退任

(新任2名)

高尾雅之、高増雅子

(退任)

岩城晴哉

(2) 理事

- ① 平成29年5月25日付 退任
吉田岳志
- ② 平成29年6月7日付 常務理事から非常勤理事に変更
斎藤 聰
- ③ 平成29年6月7日付 選任及び常務理事に選定
飯田道夫
- ④ 平成29年6月20日付 退任
佐藤俊彰 (代表理事)
- ⑤ 平成29年6月22日付 選任及び理事長 (代表理事) に選定
内田和幸

(3) 監事

- ① 平成29年10月13日 死亡
芳賀正和
- ② 平成30年3月30日付 選任
杉山幸一

事業報告の附属明細書について

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。